

ダイハツ 車種の系譜・・・その車は、どの流れの何代目か

横＝年代（図解①と同じ目盛り）／縦＝7つの系統。1967年の提携から、他社への供給という柱が育っていきます。

ダイハツの車は他社の名前でも売られています。中古で探すときは、兄弟車もあわせて検索してください。

	～1920s 創業期	1930s 戦前	1940s 戦中戦後	1950s 再建	1960s 大衆化	1970s 規制	1980s 世界へ	1990s 転機	2000s 再編	2010s 立て直し	2020s 電動化
軽乗用 会社の背骨					1966 フェロー 軽乗用への入口		1980 ミラ 長く続く柱	1995 ムーヴ 背の高い軽	2003 タント 大きく開くドア	2011 ミライース 軽くして燃費を稼ぐ	2020s 主力が継続 ⌚
軽商用 仕事を支える流れ				1957 ミゼット 戦後の街の風景をつくった	1960 ハイゼット 軽トラックの定番						2020s 現行が継続 ⌚
小型乗用 軽以外の流れ					1963 コンパノ	1977 シャレード 世界でも評価された小型車			2004 ブーン トヨタ向けの兄弟車も		2020s 供給が中心に ⌚
SUV 小さなSUVの流れ							1984 ラガー	1997 テリオス		2019 ロッキー 小型SUVの入口	2020 タフト ⌚
他社への供給 もう一つの柱					1967 トヨタと提携 すべての起点					2010s トヨタ・スバルへ軽を供給 ピクシス／ステラなど	2020s 供給が主力事業のひとつ ⌚
海外 東南アジアの流れ								1990s マレーシアの現地メーカーと提携	2000s インドネシアで生産拡大	2010s 東南アジアが柱に	2020s 継続 ⌚
技術 これからの流れ										2011 イース技術 軽くして燃費を稼ぐ 2019 新しい車台	2020s 電動化を検討 ⌚

🏆 いちばん太い流れ

軽乗用車。ミラからムーヴ、タントへ。背を高くして室内を広げる工夫の積み重ねが、この会社の歴史そのものです。

💡 中古車を見るとき使い方

ダイハツの車は他社の名前でも売られています。同じ中身で価格がちがうことがあるので、兄弟車も一緒に検索してください。

⚠️ 2023年以降の年式について

認証手続きの不正で生産が止まった時期があります。気になる場合は、その車種が対象だったか、どんな対応が行われたかを販売店に確認してください。